

令和元年度 研究推進の取組 まとめ

1. 取り組みの方向性と、目標

- ・授業研究を中心とした研究推進
- ・研究授業は、各学年1本とし、全員参観し、研究協議会（講師招聘）を実施する。
- ・教科・領域を限定せず、研究主題に沿って深めていく。
- ・研究授業前に「授業参観の視点」を明確にしてから参観する。
- ・研究協議の柱を毎回設定する。また、柱は年間を通して共通した内容とする。
- ・授業後は「研究推進だより」を発行し、「共有」と「だれでも」をキーワードに全教職員で取り組みを進める。
- ・やりっぱなしで終わらせず、各学年等で、日々の実践に生かす。

2. 成果

- ・校内研の充実。授業研当日だけでなく事前・事後の研究の進め方を1学期に全職員で共有した。
- ・提案性のある授業が実施された。
- ・授業参観時の視点の明確化により、他学年、他職種の職員でも有意義な研修にできた。
- ・研究協議の柱の明確化により、感想交流にとどまらず事後の日々の授業に生かしやすくなった。
- ・コミュニケーションカードにより、多くの教職員の意見・考えを交流できた。
- ・研究推進だよりの発行により、板書、授業展開の基本スタイル等、「共有」し「だれでも」取り組める短期目標の設定ができた。
- ・必然性のある学習課題の設定について、教職員の意識が高まった。

<授業に生かした具体>

★授業の構造化→板書計画

★授業の構造化カードの活用

★必然性のある学習課題の設定<比較の有効性>

切り口として：場面設定・色彩語・動作化・同化・テーマ発問 等



3. 課題

- ・研究推進委員会からの発信は行ったが、日々の授業にどれだけ生かしているかの検証が不十分。
- ・考え、かかわり、つなぐ力を育むための、単元設計。
- ・「一人学び」からペア・グループ、学級全体といった多様なかかわりの活用の工夫、目的や思考の視点の明確化。
- ・学びをつなぎ、思考を深めるための効果的な指導方法・思考ツール等の活用。
- ・研究協議の場の持ち方の工夫改善（グループ協議・講師からの指導助言等の時間配分について）。
- ・課題解決にむけた具体的なしかけ

(1)かかわりの目的や、思考の視点の明確化

(2)学びをつなぎ、高める指導の工夫（発問、指示、問い返し、学習モデルや条件の提示、スキル）

(3)思考を深め、可視化する、効果的な思考ツールやICTの活用

(4)多様なかかわりをつくる学習形態の工夫（個別・ペア・グループ・全）